

## 「山岳遭難保険調査票」記入への協力について

日本勤労者山岳連盟遭難対策部

この調査書は、日本勤労者山岳連盟や日本山岳協会および東京都山岳連盟など共済または山岳保険をもつ山岳団体が協力して、山岳遭難防止のための事故データベースづくりを目的に実施するものです。

これまで日本の山岳遭難における事故のデータの収集や分析は警察庁が行っている全国データ（各都道府県警察などの調査をもとにしたもの）の他には、日本勤労者山岳連盟などの山岳団体が別個に実施しているものがありましたが、事故のデータの基本となる事故の調査書や事故報告書は、調査項目など団体ごとの独自で共通性がなく、日本全体の山岳遭難事故のデータベースづくりは事実上困難な状況でした。警察の場合は、各警察ごとに調査項目が大きく異なっており、警察庁の全国データの信頼性にも関わる状況になっています。

そこでまず私たち日本勤労者山岳連盟や日本山岳協会は、組織登山者を対象に共通の事故データベースづくりが可能な「統一フォーマット」の事故の調査書を作ることで合意し、2002年から実施することになりました。それがこの調査書です。この調査書による事故のデータベースづくりが軌道にのれば、いずれ警察庁にもはたらきかけて組織登山者、未組織登山者を網羅した、全国統一した調査書に拡大・発展させたいと考えています。このような、登山組織の違いを越えた遭難事故の調査活動は初めての試みであり、また画期的な意義を持つもでもあります。それだけに、日本勤労者山岳連盟や日本山岳協会のこの共同の活動が実効性を持ったものにならなければなりません。もとよりこの調査書の記入提出は、労山遭対基金の給付申請の必要条件ではありませんが、この統一フォーマット調査書が作られた経緯、意義を理解いただき、皆さんにご協力をお願いするものです。データベースは収集する事故のデータの絶対数が多ければ多いほど、データの科学的な精度や分析価値が高まります。ぜひ提出をお願いいたします。

この調査の個人データは、事故調査とデータベースの目的以外には使われないことをお約束します。また、データ収集分析には関西大学総合情報学部の青山千彰教授（労山顧問、日本山岳協会遭難対策常任委員）にご協力をお願いいたします。

尚、調査書についてのお問い合わせなどは全国連盟遭難対策部が担当になっています。

2002年1月1日

## 事故調査書の提出のお願い

\_\_\_\_\_ 御中

事故発生： \_\_\_\_\_ 年 月 日

事故者名： \_\_\_\_\_

発生場所： \_\_\_\_\_

以上の遭難事故について事故調査書の提出をお願いいたします。

## 報告書の書き方

全5ブロック(9P)から構成されています。かなり長い内容ですが、実際に記述するところは少なく、約30分程度で記入することができます。

尚、記入には本人あるいはパーティー同行者の回答をお願いいたします。

質問項目欄と解答欄は全て表の中にあります。回答方法は質問項目に応じて自由記述回答方式と、選択方式(複数回答可で選ぶ)で回答してもらいます。別紙の報告書の書き方と記入例を参考にしてください。

全質問項目で、ほんの僅かでも該当する場合は、必ず回答してください。非常に多くの箇所で多数の複数回答となってもかまいません。

## 遭難事故者の基礎データ と事故の概要 ( 1 / 5 )

以下の項目から該当するものはすべて、あるいは記入で回答して下さい。

1. 記入者氏名	フリガナ [ ] [ ] 姓 「 」 名 「 」
2. 記入日	平成 年 月 日
3. 記入者連絡先	( Tel - - )

1. 事故者氏名	フリガナ [ ] [ ] 姓 「 」 名 「 」
2. 事故発生の 日時	平成 年 月 日 時 分ごろ発生
3. 性別	a.男 b.女
4. 年齢	「 歳」
5. 所属山岳会	「 」無所属の場合はなし
6. 医師による 診断名	「 」
7. 事故の結果	a.死亡、b.障害を残して生存、c.障害を残さず生存
8. 医療機関名	「 」
9. 治療見込み	a.要入院、b.要通院、c.要手術
10. 治療の 見込み期間	「 」 ( a 日、b.週、c.月 )
11. 発生場所 現場見取り図は 次ページ記入	山域、山名、ルート名、場所名などを記述する。 記入 「 」
12. 捜索費用	a.要した b.要しなかった
13. 救助隊人数	分かれば記入 「 人」
14. ヘリコプター の出動と時間	a.あり b.なし 分かれば記入 「約 時間」

15. 事故の区別	
外傷の種類	a.打撲、b.裂傷、c.大出血、d.神経障害、e.脱臼、f.骨折
.非外傷	a. 内科疾患[呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、感覚器系 神経系、感染症、アレルギー] b. 環境要因[急性高山病、肺水腫、脳浮腫、低体温症（凍死）、凍傷 日射病、その他「 」]

以下の表から受傷したすべての個所（部位）を選んで 印してください

頭と顔

左側	1.前頭	3.後頭	5.ひたい	7.目	9.ほほ	11.耳	13.あご
右側	2.前頭	4.後頭	6.ひたい	8.目	10.ほほ	12.耳	14.あご

頭と顔

15.頭頂部	16.鼻	17.口	18.歯
--------	------	------	------

首～尻まで

左側	19.首	21.胸	23.腹	25.肩	27.背中	29.腰	31.臀部（尻）
右側	20.首	22.胸	24.腹	26.肩	28.背中	30.腰	32.臀部（尻）

骨盤周辺

左側	33.骨盤	35.股関節
右側	34.骨盤	36.股関節

脊椎

37.頸椎(ケツイ)	38.胸椎(キョツイ)	39.腰椎(ヨツイ)
------------	-------------	------------

うで

左側	40.上腕	42.肘	44.前腕	46.手首	48.手のひら	50.手の甲
右側	41.上腕	43.肘	45.前腕	47.手首	49.手のひら	51.手の甲

手の指

左側	52.親指	54.人差し指	56.中指	58.薬指	60.小指
右側	53.親指	55.人差し指	57.中指	59.薬指	61.小指

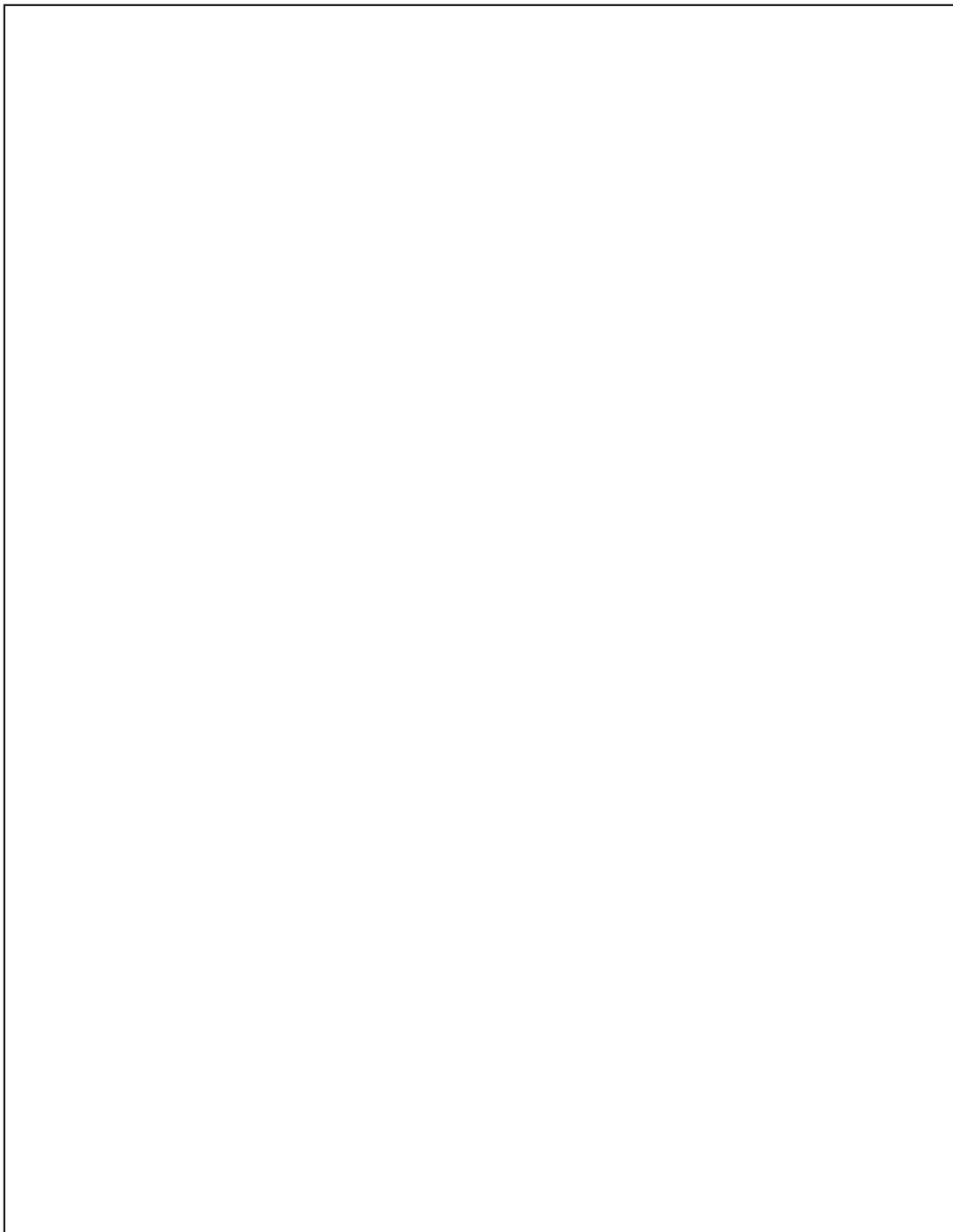
足

左側	62.大腿	64.ひざ	66.下腿	68.足首	70.足	72.足裏	74.足の甲
右側	63.大腿	65.ひざ	67.下腿	69.足首	71.足	73.足裏	75.足の甲

足の指

左側	76.親指	78.第2指	80.第3指	82.第4指	84.小指
右側	77.親指	79.第2指	81.第3指	83.第4指	85.小指

以下の枠の中に遭難場所の簡単な見取り図を書いてください。

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for the user to draw a simple map of the disaster site. The box is oriented vertically and occupies most of the page below the instruction.

## 遭難事故者の基礎データ ( 2 / 5 )

遭難事故者の基本的な能力として基礎体力・能力、装備、登山計画などについて調査します。以下の項目から**該当するものはすべて**、**あるいは記入**で回答して下さい。

1. 登山パーティ数 とその構成	パーティ人数「 人」 うち「男 人」「女 人」
2. 役割	a.リーダー、b.サブリーダー、c.メンバー、d.役割を決めず
3. 登山経験	登山を始めて「 年」 クライミング「 年」 冬山経験「 年」
4. 登山技術レベル	主に、クライミング、冬山に登る方で、自分が経験した最もハードな登山ルート、あるいはクライミングのグレードを書いてください。
登山（無雪期）	記入「 」
クライミング	記入「 」
冬山	記入「 」
5. 基礎体力 最大荷重	山行に支障をきたさない範囲で予想される おおよそ背負える最大荷重「 kg」
平静時脈拍数	脈拍数「 拍/分」
視力	普段、山で地図を見る場合に、細かい記号まで a.楽に読める、 b.目を凝らすと読める、 c.全く読めない 視力「右 」「左 」
聴覚	a.問題なく聞こえる、 b.少し聞き取りづらい、 c.全く聞こえないときがある
現在持っている 疾患（病気）	a.現在治療中、 b.放置している 記入「 」
6. 山行目的 <u>目的</u> (必ずと、共に 回答して下さい)	a.山歩き、b.アルパインクライミング、c.沢登り、d.アイスクライミング、e.フリークライミング f.山歩き、g.縦走、h.観光[山野、草花、紅葉等の観賞]、 i.山菜採り[野草、きのこ]、j.溪流釣り、k.写真撮影、l.山岳信仰、 m.狩猟、n.キャンピング o.仕事[森林伐採、下草刈り、調査研究等]、 p.その他「 」
山行準備のため のイメージ	a.夏山登山として準備 b. 冬山登山として準備 c.近くの山に行く d.軽い日帰り登山 d.何も考えない



## 出発・入山から事故発生の直前まで（ 3 / 5 ）

自宅を出発し、入山後、山行中に事故に遭遇するまで、以下の項目から該当するものはすべてで選択するか、記述してください。

1 . 利用交通機関	a.鉄道、b.バス、c.自家用車、d.タクシー、 e.ケーブルカー、 f.リフト、g.ロープウェイ、h.船 ----- 自宅から入山までの経過時間「約 時間」
2 . 事故前日までの睡眠状態	a.十分睡眠、b. 普通、c.睡眠不足
疲労状態	a.非常に疲れている、b.少し疲れている、c.普通、d.快調
3 . 事故発生までに生じた問題	a.悪天候[ガス、積雪、風雨]、b.道迷い、c. 登山道[荒廃、消失] d.器具[破損、携帯の忘れ] e.交通機関の問題 f.本人を含むメンバーの[不和、ケガ、体の不調、役割変更] g.予定変更[ルート変更、目的変更（例；クライミング中止など）] h.その他「 」
4 . 日程の消化状況 予定の日程を こなしていたか。	a.予定どおり、b.予定より早く到着した、c.予定より少し遅れてた、 d.予定より大幅に遅れてた、e.予定はない
予定より遅れた 場合、仕事への影 響は	a.非常に深刻、b.あまり問題はない、c.全く問題はない d.関係なし

## 遭難が発生した時点（４／５）

遭難が発生した段階で、その原因と背景、状況、場所について、以下の項目から該当するものはすべて あるいは記入で回答して下さい。

1．態様／原因	a.滑落、b.転倒、c.墜落、d.道迷い、e.疲労、f.発病、g.落石、h.雪崩、 i.落雷、j.悪天候のための行動不能、k.有毒ガス、l.鉄砲水、m.いさかい n.野生動物・昆虫の襲撃、o.不明、p.その他「」
2．天候	a.快晴、b.晴れ、c.曇り、d.雨、e.雷雨、f.ひょう、g.あられ、h.みぞれ、 i.雪、j.吹雪
天候の強度	a.風 [微風、少し強い、かなり強い風、強風] b.雨 [にわか雨、少し強い雨、かなり強い雨、豪雨] c.雪 [にわか雪、かなり激しく降る、大雪] d.ガス [僅かに、かなり視界が悪い、何も見えない]
気温	おおよその値に 〔_-30_-20_-10_0_10_20_30_40_(度)〕
3．事故が発生した場所(地形)道がある場合	a.斜面沿いの道、b.尾根道、c.山頂、d.谷川に沿う沢道、e.平坦な道 f.岩山をぬう道、g.岩山を削った道、h.樹林帯、i.湿地帯、j.河床 k.雪渓、l.雪田、m.荒れ地、n.崩石・崩土地帯 o.人工 [階段、板橋、吊り橋、丸太橋、作業道、林道、ドライブウエー、石畳、線路、えん堤、堤防、スキー場]
道がない場合	a.がけ地、b.岩壁、c.氷壁、d.雪壁、e.氷瀑、f.氷河、g.氷雪斜面、 h.岩場斜面、i.土石斜面、j.ガレバ、k.雪庇、l.やぶ、m.沢すじ、 n.滝、o.湿地帯、p.河床、q.その他「」
4．事故発生地点での登山道・岩場の状態	a. 植生 [草、枯葉、根、コケ、クマザサ、這い松、やぶ、樹林] b. 土 [泥、一般土、砂利、れき(こぶし大～)、ガレバ、腐植土] c. 岩 [固い、ぼろぼろ]、 d.岩の形状 [スラブ、フェイス、クラック] e. 雪氷 [雪道、氷結道、土の凍結、クレバス]、f.クサリ、g.ハシゴ h.ロープ備え付け、i. 水 [河原、河床、水の越流道]、 j.ガスの噴気道 k.その他「」
5．落下物が被害者に衝突	a.落下物 [自然落石、人為落石、人、道具などの物 その他「」] b.雪崩 c. 山崩れ d.土石流、e. 岩崩れ
6．事故斜面の斜度	a.ほぼ水平、b.緩傾斜(0～9度) c.やや急傾斜(10～29度) d.急傾斜(30～59度) e.壁(60度以上)
斜面の傾き方	a.登り、b.下り (進行方向に対する傾きです)



## 事故発生後、救出されるまで ( 5 / 5 )

事故発生後、どのような処置・連絡がとられ、救出されたのか、以下の項目から該当するものはすべてで選んで下さい。

1 . 事故直後の意識・運動障害	a.意識 [完全に失う、呼べば答える、意識あり] b.運動 [全く動けない、少しだけ動ける、助けがあれば動ける、何とか歩ける、全く問題なく動ける] c.即死状態
2 . 事故後の運動拘束状況	a.危険な場所に落下し動けない状態、b.ロープに宙吊り、 c.雪崩・崖崩れで生き埋め、d.落下物により拘束される、 e.すき間などに挟まれる f.その他「 」
3 . 事故の発見連絡 事故発見者	a.同行家族、b.パーティ仲間、c.レスキュー、d.一般登山者、 e.地元の人、f.留守家族・仲間からの搜索願
連絡方法	a.携帯電話、b.無線、c.一般電話、d.歩いて[家族、仲間、一般登山者]
連絡先	a.警察、b.消防、c.山岳会、d.近くの登山パーティ、e.家族 f.その他「 」
連絡時間 あるいは日時	事故後、レスキュー（警察・消防・山岳会など）に連絡が入るまでの経過時間「 時間」 あるいは、連絡が入った時刻「 日 時ごろ」
4 . 事故後の処置 応急処置者	a.遭難者本人、b.パーティ仲間、c.家族、d.一般登山者、 e.レスキュー、f.医療関係者、g.地元の人、 h.処置を施さず
処置法	a.止血、b.消毒、c.添え木あて[手、足、首、胸]、 d.人工蘇生[人工呼吸、心臓マッサージ]、e.体位変換、f.洗浄、 g.携帯薬の服用、h.注射、i.冷やす、j.暖める、k.酸素吸入 l.その他「 」
5 . レスキューの到着時間	事故後、レスキューが遭難現場に到着するまでの時間 「約 時間 」
6 . 救出時間	事故後、救出（下山）されるまで、おおよその時間 「約 時間 」
7 . 救出手段	a.ヘリコプター、b.背負われて、c.脇を支えられて、d.自分で歩いて
8 . 事故に要した費用の予測	概算額（既に分かっている場合その額、分からない場合は不明） 「 円」